

東京民医連

# 東日本大震災 ニュース

2011年5月11日

No.59

発行：東京民医連事務局

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：[sien@tokyominiren.gr.jp](mailto:sien@tokyominiren.gr.jp)

## 「陸前高田を勝手に応援する会」が バス2台で現地調査とボランティア活動

八田 満穂さん（元代々木病院友の会会長、劇団新人会代表）の呼びかけで、4月28日（木）～30日（土）、陸前高田市へ現地調査とボランティア活動に参加して来ました。八田さんは、陸前高田・戸羽市長が、「大臣に避難所で一泊してもらえば現状分かる」と話していた記事を読み、「(今回の大震災で)事なきを得た私たちは、わずかな力ではあっても出来ることをして、被災者の皆様のお役に立ちたい。ギターなど演奏できる人は、音楽で激励することも可能かもしれま



せん」と呼びかけました。

東京民医連からは、城南三法人9名（職員7人、職員家族2人）、代々木病院1名が参加。全体では、あかつき印刷、東京土建等から85名の参加となり、最高齢は82歳でした。現地では、いくつかのグループに分かれて、聞き取り訪問行動、青空市場、網の修復作業を実施。宿泊先の岩手湯本温泉ホテル対滝閣で避難者と交流、沢内村では沢内病院や深沢記念館、資料館などを見学しました。

今回のツアーは、(株)ラッキートラベル（板橋区）が企画。金野富男社長は賛同人の一人で、ご自身もボランティア活動に参加。費用はバス代、宿泊費、朝食2回・昼食2回・夕食1回、保険料他で22,000円！！新幹線での往復交通費(25,000円)よりも安い企画となりました。

### 参加者の感想：城南保健生協 事務局 横山 直城

陸前高田は、本当に壊滅的な被害でした。参加者からは、「短期間の支援だったが、もっと他にもできたことがあったのではないか？」、「引き続き2回目、3回目と参加したい」、「少しの時間だけだったが、このような取り組みを多くの人が続けていくことが必要。胸をはって帰りましょう」などの感想が印象的でした。「支援のあり方」はとても難しいと思います。一週間にわたる支援から帰ってきた看護師も、「もっといろいろしたかった」などの想いを語っていました。今回は、日本共産党の市議が、「訪問行動に行くための地図おとしや車の手配」、「からまった網を修復するための漁師さんとの打合せ」など、私たちの仕事を用意してくれていました。今、必要なことを支援者にしてもらうための準備も大変です。今後も支援の輪が広がり被災地入りする方も多いと思いますが、「些細なことでも支援につながる」、「復興のためにできることをする」という気持ちを持ち続けることが大切だと感じて帰ってきました。